

令和4年度 学校経営計画・学校評価

□4月5日提出 □10月3日提出 ■3月15日提出

| | | | | |
|------|---|------------|----|---|
| 学校番号 | 8 | 高知県立山田高等学校 | 課程 | 全 |
|------|---|------------|----|---|

| | | | |
|-------------|--|-------------------|---|
| 高知県の教育の基本理念 | (1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材 | 取組の方向性 | ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に合った教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 |
| 目指すべき学校像 | (1) 生徒が誇りと自信を持って生き生きと学ぶ学校 (2) 進路を確実に保障する学校 (3) 地域に信頼される学校 | 目指すべき姿を実現するための取組等 | (1) 学力の定着・向上 (2) 社会性の育成 (3) 健全な心身の育成 (4) 探究活動の推進 (5) 国際交流活動の推進 (6) 学校・家庭・地域の連携強化 |
| 目指すべき生徒像 | (1) 自他に対して誠実で、誇りを持ち、何事に対しても貫徹できる生徒 (2) 知・徳・体の調和が取れており、地域社会に貢献できる生徒 | | |

| | |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価 | |
| 【学力の向上】 評価 【 A 】 | 基礎力診断テストにおいて、入学時と比較し、D層の生徒が確実に減少していることは、十分な成果である。また、探究の学びの深度も年を追うごとにレベルアップしている。 |
| 【社会性の育成】 評価 【 A 】 | 地域の行事等への参加態度は高校生というより、もう立派な大人の対応をすることができ力を備えている。地域としては、山田高校に感謝している。 |
| 【チーム学校】 評価 【 B 】 | 高校生自身が、中学生に向けて説明を行うなど積極的な取り組みがされている。A日程における地元中学校からの出願率も地域からみたら、低い数字でない認識している。 |

【重点項目：生徒に対する取組項目】

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

| | 育成を目指す資質・能力【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|--------|---|--|---|---|---|---|---|
| 学力の向上 | ○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む) | 【現状】 ・基礎力診断テスト D層割合 1年次:33% 2年次:36.8% ・進研総合学力テスト偏差値50以上1年生:0人(外数 グ探5人) 2年生:2人(外数 グ探8人) ・国立大学合格 19人(3月9日現在) ・1年生1月 進研総合学力テスト平均点偏差値 (48.5) ・2年生1月 進研総合学力テスト平均点偏差値 (49.1) 【目標】 ①学力定着把握検査 ・高校1年生2回目におけるAB層の生徒の割合30%以上。 ・高校2年生2回目におけるD3層の生徒の割合10%以下及びAB層の生徒の割合30%以上。 ②進研総合学力テスト(3教科総合)～普通科・ビジネス探究科～ ・1年生1月における偏差値50以上の生徒を3名以上。 ・2年生1月における偏差値50以上の生徒を5名以上。 ～グローバル探究科～ ・1年生1月における平均点偏差値を50以上。 ・2年生1月における平均点偏差値を53以上。 ③国立大学合格者20名以上。 | ・提出物を必ず提出させるとともに家庭学習の定着を図る。 ・自主学習の充実(宿題、小テスト、単元確認テストの実施) ・総合型選抜、学校推薦型選抜受験希望者に対する進捗管理の徹底 ・模擬試験に対応した進学補習の実施と出席管理の徹底 ・探究活動と各教科との関連をより一層意識させることにより教科学習への意欲向上につなげ、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。 ・具体的な支援策を見える化するとともに、模試結果等の情報を各教科、学年団などで共有し、さらに対策を検討する。 | 【目標に対する中間評価】 ①学力定着把握検査 ・高校1年生1回目におけるAB層生徒割合 7.9% ・高校2年生1回目におけるD3層生徒割合10.9% ・高校2年生1回目におけるAB層生徒割合26.7% ②進研総合学力テスト3教科総合～普通科・ビジネス探究科～ ・1年生7月における偏差値50以上生徒 0名 ・2年生7月 " 0名 ～グローバル探究科～ ・1年生7月における平均点偏差値 47.8 ・2年生7月 " 49.1 ③国立大学 受験予定者数 28名 | ・当初に設定した取組内容継続 ・基礎力診断テスト、模擬試験の結果分析、課題提出、進学補習、家庭学習時間等に関する状況把握と具体的手立ての共有を図り、さらなる取組の徹底を図る。 ・課題提出率 1年93.5% 2年93.6% 3年97.3% ・進学補習出席率 1年79% 2年74.7% 3年 80.2% ・家庭学習時間 1年67.1分、2年55.5分、3年74.2分 ・すらら活用 ・個別指導の徹底により学習意欲の向上ならびに進学実績の向上を目指す。 ・自習室の積極活用。 | 【目標に対する年度末評価】 ①学力定着把握検査 ・高校1年生2回目におけるAB層生徒割合 32.2% ・高校2年生2回目におけるD3層生徒割合 13.2% ・高校2年生2回目におけるAB層生徒割合 22.0% ②進研総合学力テスト 3教科総合～普通科・ビジネス探究科～ ・1年生1月における偏差値50以上生徒1名 ・2年生1月 " 1名 ～グローバル探究科～ ・1年生1月における平均点偏差値 50.9 ・2生1月 " 47.7 ③国立大学合格者22名 | ・探究活動と各教科との関連をより一層意識させることにより教科学習への意欲向上につなげ、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。 ・模試結果等の情報を各教科、学年団などで共有し、支援策を検討・講ずるとともに、進路補習と授業のさらなるリンクに努める。 ・デジタルドリル「すらら」を活用し、学習の個別最適化を図るとともに授業の復習等で活用する。 |
| 社会性の育成 | ○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力) ○地域貢献活動の推進 | 【現状】 探究学習を進めるなかでかかわる力は身に付いている一方、下記③実際に行動している割合は、50%に届いていない。 【目標】 ①県オリジナルアンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」割合95%以上。 ②県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」割合50%以上。 | ・学年集会及びホームルームにおいて、貫徹精神を持つことの大切さを理解させる。 ・部活動をやり続けることの大切さをキャプテン会や部活動で指導する。 ・生活習慣の確立を目指し、生徒支援委員会等で生徒個々の情報と手立ての共有を図る。 ・探究活動を通して一層チームワークの強化を図り、クラス運営に反映させる。 ・地域貢献活動やボランティア活動への参加機会を多くつくる。 | 【目標に対する中間評価】 ①県オリジナルアンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」割合1年 96.5% 2年 96.0% 3年 95.6% ②県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」割合1年 45.6% 2年 32.0% 3年 40.4% | ・引き続き、学年団・ホームルームにおける指導を充実する。 ・部活動の意義や部活動を通して得られる価値や関係性について、全校集会等で伝えるようにする。 ・生徒支援委員会での生徒の状況、具体的な支援方針について共有し、SC、SSWと密に連携しながら学校への適応を支援していく。 | 【目標に対する年度末評価】 ①県オリジナルアンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」割合1年92.9% 2年94.6% 3年98.2% ②県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」割合1年 35.7% 2年 32.6% 3年45.1% | ・生活習慣の確立を目指し、生徒支援委員会等で生徒個々の情報と手立ての共有を図る。 ・探究活動等を通して一層チームワークの強化を図り、クラス運営に反映させる。 ・ボランティア活動等の積極的な情報提供。 |

【チーム学校：教職員が取り組む項目】

| | 取組のねらい【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|-----------|--|---|---|---|--|---|---|
| 授業改善 | ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。 | ・公開授業週間に参観し、参観シート(年2回以上)提出する。 ・授業でICTを効果的に活用している教員の割合85%以上。 ・県オリジナルアンケート「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合85%以上。 | ・教科会の充実 ・外部講師を招聘しての研究授業及び研究協議の実施 ・教員間の相互授業参観の充実 ・好事例の共有 | B ・「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合(R3 1回目) 1年生 79.8%(76.2%) 2年生 69.0%(71.4%) 3年生 79.9%(82.0%) | ・当初に設定した取組内容継続 ・公開授業週間活用 ・指導主事来校研究協議活用 ・指導の型(目標提示、ふりかえりの徹底) ・教育課程検討委員会(学力向上検討委員会) | B ・参観シート提出率 80.5%(2月3日現在) ・授業でICTを効果的に活用している割合72%。 ・「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合 1年生75.0% 2年生 66.3% 3年 77.9% | ・引き続き、学校支援チームによる学校訪問を活用しながら、教科会等において授業構成や発問、授業の型の定着、好事例などを共有していく。 |
| 生徒理解 生徒支援 | ○生徒に寄り添い、一人一人の状況や特性、気持ちを捉え、生徒の実態や内面を共感的に理解する。 ○生徒への目標設定を下げず、決められたことを守らせ、やり抜かせる。 | ・出席不良者(30日以上欠席/年)の割合2%以下。 ・学期末の出席状況における皆勤の割合30%以上。 ・1年生 部活動加入率(2月1日現在)90%以上。 | ・学年会の実施(毎月) ・特別支援教育校内委員会の実施(毎月) ・地域課題解決学習担当者会の実施(毎週) ・ホーム面談の充実 | B ・一学期皆勤者の割合 52.6% 1年生69名(60.5%) 2年生42名(41.5%) 3年生62(54.3%) ・出席不良者(10日以上欠席) 1.2% 1年生 3名 2年生 3名 3年生 1名 ・皆勤者は昨年度に比べ微減。不登校傾向の人数は昨年度より増加。 ・医療機関をはじめ、関係機関などの連携を継続していく。 | ・当初に設定した取組内容継続 ・不登校傾向にある出席不良者については、SCやSSW、市の社会福祉協議会をはじめとする関係機関と連携を取りながら対応していく。 ・医療機関をはじめ、関係機関などの連携を継続していく。 | B 出席不良者(30日以上欠席)7名 2.1% 1年生3名 2年生3名 3年生1名 皆勤者の割合21.9% 1年生24名(21.1%)、2年生23(22.8%) 3年生25名(21.9%) 皆勤者は昨年度(83名)より減少。不登校傾向の人数は昨年度(8名)より減少。 不登校傾向の生徒数は中間評価時と同じ。 ・1年生 部活動加入率 97% | ・基本的にはこれまでの取り組みを継続していく。 ・不登校生徒への対応は、SC、学級担任等との連携を密にし、初期段階で生徒個々の状況に応じて行う。 ・外部機関との連携が必要な場合は、SSWを積極的に活用する。 |
| 学校の振興 | ○探究活動の推進 ○志願者数の増加 | ・各種発表会等で探究成果を発表し、県内に発信できている。 ・A日程入試における地元中学校からの出願率40%以上。 ・A日程入試におけるグローバル探究科の出願数41人以上。 ・学校HPの更新週1回以上。 ・インターナショナルデーの参加者20名以上。 | ・広報活動推進 ・学校説明会実施 ・進路実績 ・卒業生による探究活動の成果発信 | B ・中学生一日体験入学参加生徒数202名(令和3年度224名) ・中学校訪問による中学生への説明18校563名(令和3年度19校571名) ・生徒による中学校訪問を企画し、香美市内中学校3校、北陵中、香我美中にて実施。 ・オープンスクール(8月29日、30日、31日)39名(中学生・保護者等含む)参加。 | ・体験入学の際、3学科の生徒がプレゼンテーションを行う。 ・引き続き、中学校を訪問し、探究科を中心とした説明会を実施する。 ・香美市立中学校2年生への学校説明 | B ・探究成果発表は各科で実施。 ・A日程地元中学校から出願率26.1% ・A日程グローバル探究科6人出願 ・学校HP更新のタイミングが遅れたものもあったが、積極的に更新できた。 ・インターナショナルデーは開催できなかった。 | ・広報活動推進 ・学校説明会実施 ・グローバル探究科一期生の進路実績の発信 ・探究活動の成果発信 ・高知工科大学外国人講師によるアドバンス講義 ・ラーゴ高校短期留学再開 |
| 働き方改革 | ○教育に対する情熱を持ちながら、合理的かつ協働的に業務に取り組む職場環境を整備する。 | ・時間外労働時間の総計平均月45時間以内。 | ・原則19時前の退勤に努める。 ・水曜日を部活動休養日とするとともに、週休日の部活動は顧問間で交代しながら指導する。 ・衛生委員会を開催し、職員の健康管理を行う。(毎月) | B ・45時間を超える時間外労働従事者数 4月6名 5月5名 6月7名 7月0名 8月0名 9月5名 衛生委員会等において、職員の健康管理を行っている。 | ・当初に設定した取組内容継続 ・声掛け、業務分担の適正管理を行い、19時までの退勤に努める。 | B ・45時間を超える時間外労働従事者数 10月5名 11月7名 12月2名 1月4名 2月6名 衛生委員会等において、職員の健康管理を行っている。 | ・次年度以降も積極的な声掛けと協働体制の構築に努める。 |
| 産業教育の充実 | ○生徒の資質・能力の育成 ○教員の指導力向上 ○関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化 | ・ビジネス探究科に対する満足度80%以上。 ・対外機関と取り組む連携活動3つ以上。 | ・外部講師活用 ・毎学期の科集会と毎週の科会開催 ・課題研究発表会開催 ・地域貢献活動の推進 ・地域課題探究の取組強化 | B ・外部講師招聘計画を作成して取り組んでいる。 ・1学期に科集会を実施、2学期計画中。 ・地域みらい部を核にした活動を推進している。 ・2学期中に諸取り組みの佳境を迎える。引き続き伴走・指導の充実を心掛ける。 | ・当初に設定した取組内容継続 ・引き続き計画の実践に取り組む。 | B ・生徒のビジネス探究科満足度 91% ・対外機関との連携17件は目標以上の取り組みができていた。 ・4つの取り組みのねらいについては、十分な成果があったとはいえない(学校や教員の思いや施策が一人一人の生徒に届いていない) | ・科の掲げる目標や、諸活動の目標が生徒の実情やニーズにマッチしていないようにみられる。この点を改善する必要がある。 |